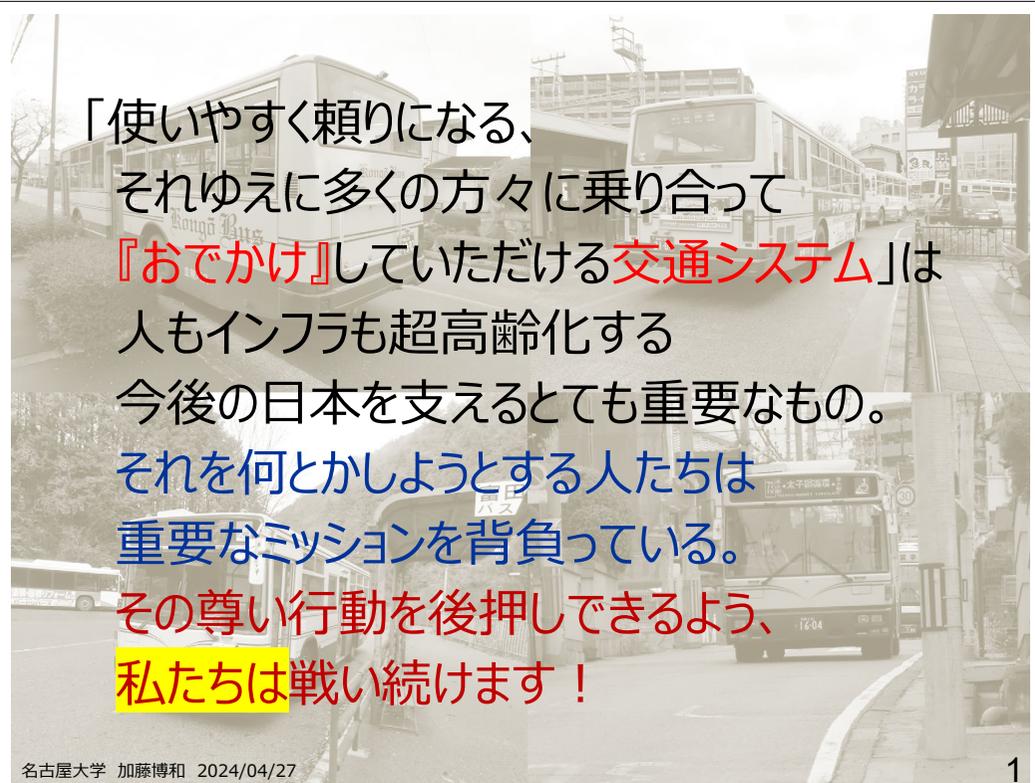




国土交通省 2023年度 地域交通共創モデル実証プロジェクト採択
「法定協議会を活用できる地域共創コーディネーター育成事業」

「地域公共交通コーディネーター・ プロデューサー養成プロジェクト」 総括 (2024/4/27)

地域公共交通プロデューサー
名古屋大学大学院環境学研究科教授
加藤博和



「使いやすく頼りになる、
それゆえに多くの方々に乗り合っ
て『おでかけ』していただける交通システム」は
人もインフラも超高齢化する
今後の日本を支えるとても重要なもの。
それを何とかしようとする人たちは
重要なミッションを背負っている。
その尊い行動を後押しできるよう、
私たちは戦い続けます！

名古屋大学 加藤博和 2024/04/27

急を要する「地域公共交通の現場での改善」には 「ヒョーロンカ」は不要です！

- 全国の大学・高専でバラバラだった公共交通に関する取組を組織化し、「現場で地域公共交通改善に取り組める人材を養成する体制をつくります
- 地域公共交通の世界は誤った理解・認識に満ち溢れています。それらを一掃します
- 実際に現場で取り組んでいる方、取り組みたい方に広く参加できるようにします
- 現場体験を積む機会に参加し、実戦で活躍できる人材になっていただきます
- そして、2023年の地域交通法改正でさらに権限や対象範囲が増大した「法定協議会」を有効に活用して地域公共交通改善を進める方法を学んでいただきます
- 受講生や講師の間のコミュニケーションの場を提供し、全国での横連携を生み出し、みんなでレベルを高めていきます

「地域公共交通 コーディネーター・プロデューサー 養成プロジェクト」

名古屋大学 加藤博和 2024/04/27

「一所懸命」をつくりだすコーディネート



- ①公共交通を必要とする
地域住民の願いや活動
- ②理解し下支えする自治体
- ③協力的であり、あわよくば
新しいビジネスにしようとする
交通事業者
→だけでは言葉が全然通じない
- ④インタプリター(翻訳)
→言葉が通じるようになれば
コーディネーター(調整)へ

意識共有できる人たちが集まり、行動できる場の必要性
それがないとキーパーソンも活躍できない

地域のみんなの思いをまとめ、やる気を出させ、形にしてい

名古屋大学 加藤博和 2024/04/27

旧弊な公共交通をいかに革新するか (多くの現場は、いまの運行形態では戦えない)

- 「利便性が高く費用の安い公共交通実現」を「現場で」目指す
- 利用者・地域のニーズに応えられる**適材適所な基本コンテンツ**(**系統・ダイヤ・乗降施設・車両**)と**シームレスなネットワーク化**の**具体的提案**
 - それを必要とする利用者(運賃)／周辺住民・企業(協賛金)／自治体(補助)の**三方一両損のビジネスモデル**
 - スピード感と粘り強さ**を持ち、**現場感覚**を起点とした**戦略・企画・実施・点検・見直し**
 - 地域公共交通づくりを通して地域づくりまで高める**運動論**
→ **地域公共交通サービスが、地域の持続性を高めるツールとして機能し、付加価値を発揮するに至るまでのソリューション提示と実現支援**

コーディネート、プロデュースの本丸

「地域公共交通会議・協議会」

あってはならない 「地域公共交通会議」「法定協議会」

- 年間予定がなく開催が行き当たりばったり
- 協議事項があるときしか開かない(のでシャンシャンにしたい)
- 事前に委員への資料配布をしない
- 開催通知や決定事項を地域住民や利用者に分かる形(広報・webはもとより、停留所や車内など目の届くところ)で提示していない
- 開催時刻を公共交通の時刻に合わせない(開催通知に書く。駐車場無料券を出すなど論外)
- 傍聴者がいない(PRしていない)
- 住民・利用者代表がしゃべらない(しゃべりやすくする工夫をしていない)
- 現場を知らない委員に見せる、体験させる機会をつくらない(バスは会議室でなく現場を走っている)
- コミバスやデマンドしか扱わない(事業者路線は話題にもしない)
- 規定の委員しか集めない

この程度のことをやっていなくて、
「この制度はうまく機能しない」って、当然でしょ！
バス路線廃止などの重要事項を**書面協議**で済ます、
逆にバス路線廃止を急ぐ(30日退出)ために**開いて通す、など
まともな議論をしない発想は言語道断。やる気あるのか？**

地域公共交通プロデューサーに必要なスキル ・・・「現場起点」(現場目線や現場主義ではない)

- 土地カン**
 - 路線が分かる、地名を読める、集客施設がわかる
 - 現場百回。往復したり別手段で回ったりと視点を変える
- 調査力**
 - 案内付き「視察」は1回目は厳禁
 - 乗る、観察する、溶け込む、改善策を考える
- コミュニケーション**
 - 老若男女と話ができる
 - しゃべるのでなく聞き出す、考えてもらう
 - 言いたいことではなく、言わなければならないことを言う
- 提案力**
 - 引き出しを多く持つ。そのためにいろいろ勉強する

・皆さんに教えていただかないと何もできないという「謙虚さ」
・皆さんの意見を吟味した結果を提示し説明し実行できる「自信」

「法定協議会を活用できる地域共創コーディネーター育成事業」2023年度試行
国土交通省地域交通共創モデル実証プロジェクト採択事業 (国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学)

●今年度の流れ (ベーシックコースの試行実施)

告知

- 受講生募集 (9月中旬頃から開始)
- キックオフイベント (10月6日<金>午後開催)

試行
実施
10~
1月

①リレー
レクチャー

基礎を学べる講義

- 公共交通に関する基本的事項 (制度、技術、経営、効果等)
- 協議会の意義、コーディネート・活用方法
- 他分野との連携手法

②フィールド
スタディ

現場の実情を体感する

講師が参画する地域公共交通協議会・協議会 (2022年度実績81地域)

③ディスカ
ッションサ
ロン

講師と直接話ができる

- 講師・受講者同士のネットワークの構築
- 新しい問題提起
- スタートアップとのマッチング
- 実際の協議会を傍聴し体感
- 対応する現場の交通も見学
- 「課題抽出→事業提案」を試みる

内容
検討
(次年度へ)

- 試行結果を踏まえ、次年度の内容へ反映
- **本プログラムは次年度に本格実施予定**
- **<エキスパートレクチャー (実践科目) を追加>**

●事業内容 (授業)

①リレーレクチャー (基礎を学べる講義、オンライン可)

<講師・プロジェクト運営>

- 加藤博和 (名古屋大学): 代表
- 板谷和也 (流通経済大学)
- 井原雄人 (早稲田大学)
- 猪井博登 (富山大学)
- 大井尚司 (大分大学)
- 岡村敬之 (東洋大学)
- 神田佑亮 (呉高専)
- 樋口恵一 (大同大学)
- 日野 智 (秋田大学)
- 福本雅之 (名古屋大学)
- 松原光也 (名古屋大学)
- 宮崎耕輔 (香川高専)
- 吉田樹 (福島大学)

法制度の活用方法
法定協議会の活用方法
合意形成手法
→共創の場の創造



交通×福祉・医療
交通×教育
交通×商業
交通×観光
交通×まちづくり 等
→他分野との連携促進

②フィールドスタディ (現場の実情を体感する)

- 各地の地域公共交通会議・協議会を傍聴、対応する現場も見学

③ディスカッションサロン (講師と直接話ができる)

- 講師・受講者同士のネットワークの構築
- 新しい問題提起
- スタートアップとのマッチング

2023年度：ベーシックコースの試行

<リレーレクチャー:座学>

● 公共交通に関する基本的事項の理解

- コーディネート・プロデュースに関する知識
- 技術・モードに関する知識

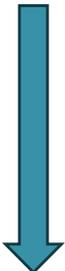
<フィールドスタディ:現場>

● 実際の運行現場や協議会を体感

- 課題抽出→事業提案を試みる
- 現場で活動するために足りないことを知る

受講の状況

受講登録者 430人



不合格者の内訳<推定>

- 登録しただけの人 + 視聴していたが課題未提出の人 4割弱
- 途中で課題提出をやめた人 2割

合格者 128人 (+FS未受講47人)

約4割が到達<パーフェクトが大半>

※やはり、視聴しているだけでは学習効果は弱いです
※今回合格者でもパーフェクトでない方は不合格授業の再受講を勧めます

私自身の感想

- リレーレクチャー12回すべてに参加(2回担当)
- ディスカッションサロン5回のうち3回に参加
- フィールドスタディ16回実施
 - 正直、非常にためになったし、気づかされることも多かった
 - リレーレクチャーで、基礎知識の理解はおおむね進んだと感じた。講師陣の認識を共有しカリキュラム改善を図るため副担当を設けたが、主担当講師とのやりとりも受講生にとって有用であった
 - フィールドスタディでは、「現場に行く前の情報収集」「現場での実乗等による踏査」「会議傍聴による学び」の3要素について、レポートからは個人差の大きさが読み取れた
 - 両者の関連はあまり意識しないで実施した。これはある程度現場を経験しないとわかってこないのではと考える
 - ディスカッションサロンは任意としたが、参加が少なく残念。私は面白かったが、リレーレクチャーとあまり差がないやり方になってしまった
 - 「大阪南部」は全員で乗車体験し21人参加で好評。今後も企画したい

課題

- ・初年度で手探りだったため運営の段取りが悪くご迷惑をおかけした。**日程決定が直前**となり、受講しづらかったと思われる
- ・フィールドスタディの実施**方法が不統一**(場所選定ルール、段取り、レポート設定など)
- ・ディスカッションサロンの**参加が少なかった**。任意だから出ないというのなら情けないが、見直しが必至
- ・本プロジェクトの趣旨に対するご理解が十分でないところがあった。
 - 例えば「課全体で受講する」「課の誰か都合のいい人が入れ替わり受講する」ことがあった模様だが、「**個人のスキルを上げる<その証明として修了証を渡す>**」ことを想定しているので、本来の趣旨とは異なる
 - 合格至上主義的な方が見受けられた。仕方ないことではあるが、本来は、**現場で対応できるスキルをつけることが目的**であるべき。本プロジェクト修了者の価値を高めるためにも自覚をお願いしたい

カリキュラムの構成

<ベーシックコース> 2023年度試行、24年度も実施予定

①リレー レクチャー 基礎を学べる	②フィールド スタディ 現場の実情を体感する	③ディス カッショ ンサロン 講師と直接 話ができる <任意>
④エキスパー トレクチャー 実践に直結する	⑤インター シップ 実際に現場で関与する	

さらに、修士・博士課程学生や研究生として指導を受ける道も

「地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト」 2nd STAGE(2004)

●事業フロー

ファイナルイベント (4月27日<土>開催)
: 修了証授与、受講者との意見交換

※前年度ベーシック講座修了者を対象

アドバンスド コース 第1期試行 6~10月	エキスパート レクチャー (室内+現場)	インター シップ (現場)
---	------------------------------------	-----------------------------

※新規受講者を対象

ベーシック コース 第2期試行 10~1月	リレー レクチャー (対面+オンライン)	フィールド スタディ (現場)
--	------------------------------------	-------------------------------

内容を見直し、ベーシック講座次年度本格実施へ
アドバンスド講座から地域公共交通プロデューサー・
コーディネーター人材を創出

実施主体：国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学院環境学研究所附属持続的共発展教育研究センター
後援：(一社)日本民営鉄道協会、(公社)日本バス協会、(一社)日本旅客船協会、(一社)全国ハイヤー・タクシー連合会<予定>

●ベーシックコースの内容

リレーレクチャー(90分x15回)

<コーディネーター・プロデューサー>

- ✓「概説」
- ✓「意義・概念・波及効果」
- ✓「課題整理・仮説設定・調査」
- ✓「協議会運営・会議資料」
- ✓「目的と評価」
- ✓「評価指標の決め方と改善」
- ✓「合意形成」<追加>
- ✓「プロデューサー」
- <モード、技術>
- ✓「新技術の地域への適用と評価」
- ✓「オンデマンド型交通」
- ✓「タクシーの活用」
- ✓「鉄道の活用」
- ✓「ソフト施策(情報発信、案内、MM、利用促進)」
- ✓「IT・DXの活用」<追加>

※追加講座(半日程度)

- ✓実際の運行現場や協議会を体感(自治体の会議に加え、専門部会や住民懇談会等も追加)
- ✓「課題抽出→事業提案」を試みる

●講師(事業実施メンバー)

- 加藤博和(名古屋大学)：代表
 神田祐亮(呉高専)
 大井尚司(大分大学)
 吉田樹(福島大学)
 宮崎耕輔(香川高専)
 猪井博登(富山大学)
 福本雅之(名古屋大学)
 井原雄人(早稲田大学)
 日野 智(秋田大学)
 樋口恵一(大同大学)
 岡村敏之(東洋大学)
 板谷和也(流通経済大学)
 松原光也(名古屋大学)
 伊藤昌毅(東京大学)
 水谷香織(名古屋学院大学)
 宇佐美誠史(岩手県立大学)
 松尾幸二郎(豊橋技術科学大学)
 有村幹治(室蘭工業大学)

- アドバンスドコースの内容・方法整備
- 講義の動画・講義録を蓄積し、eラーニング用のコンテンツを充実
- 修了者の質が保証できるよう留意(効果測定等の方法)
- 大学等の連携によって継続的に実施できる体制構築へ。大学・高専専業への活用も視野に

今年度の内容

[注意]今年度の予算等が流動的なため、下記が完全実施できるかどうかは未定。規模縮小等ありえる。

<前半>アドバンスドコース

リレーレクチャー合格者を対象

- ・ **エキスパートレクチャー**
 - 1日かけて、より**詳細・専門的な内容**について演習を交えて学修
 - 教室での座学のほか、**現場調査の回も予定**
 - **名古屋大学での対面開催**だが、各地にサテライト会場を設けて受講しやすくすることを検討中
※皆さんの意見も踏まえ設計していく予定です
- ・ **インターンシップ**
 - 長期にわたり**継続的に対象地域にかかわり、実際の業務の手伝い**も行う(旅費滞在費は自費です)
- ・ **ディスカッションサロン<ベーシックコースも共通、任意>**
 - **1人の講師と受講者(別の講師も入る)が自由に対話できる時間**として再設定。各講師の所属先やフィールドでの実施が原則

今年度の内容

【注意】今年度の予算等が流動的なため、下記が完全実施できるかどうかは未定。規模縮小等ありえる。

<後半> ベーシックコース: 第2期

・リレーレクチャー

- 「合意形成」「IT・DXの活用」を新規開講。今回合格者はこの2つが合格すると、新たな修了証明書をもらえる
- 他の回は、昨年度実施状況を踏まえて内容・講師を見直す可能性あり。副担当は原則差し替える
- 対面・オンラインの選択を自由にする。既合格者も受講可能(対面出席は新規受講者優先)

・フィールドスタディ

- 昨年度と同様。地域公共交通会議・協議会等の傍聴と、終了後の質疑応答(講師+会議事務局)、可能な範囲でフィールドの紹介
- 自分が関わる場所、近所は避けること(自分で傍聴すればよい)
- 事前学習レポート、事後レポート提出を必須とする。開催場所や行先は自分で調べる。自動車でアクセスすることは原則禁止
- アドバンスドコース受講者も定員に余裕がある場合参加可能

加藤博和

検索 

URL: <http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kato/Jkato.htm>

E-Mail: kato@genv.nagoya-u.ac.jp

facebook: <https://www.facebook.com/buskato>

地域公共交通の戦略立案や再編、地域参画、鉄道存廃検討などに、各地の現場でボランティア参加しています。

意識を共有できる方々ならば、どこへでも出かけて協力します！

地域を楽しくするため、ぜひ一緒に仕事しましょう！

※「地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト」

<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kyoso.htm>

Think Globally! 一所懸命
適材適所 Act Locally!

[Nagoya Univ. Regional Strategy Lab.](http://www.nagoya-u.ac.jp/region)